

誰ひとり取り残さない
ジェンダーの視点で考える防災

組織のリーダーはやっぱり男性がいいのかな～？

女性や多様な人々のニーズが反映されない!

- 男性の視点
- 女性の視点
- 子育て家庭の視点
- 高齢者の視点
- 障がい者の視点 など

災害時には、こんな問題が・・・!!

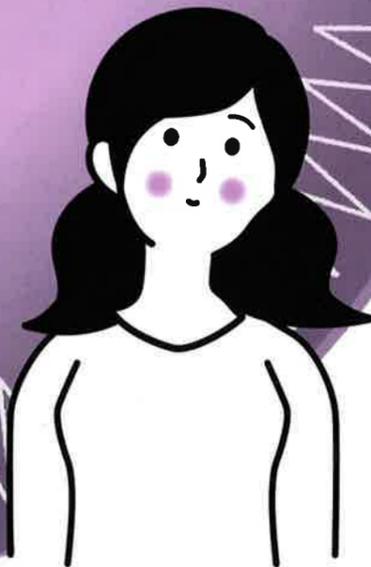
地域の災害対応力を高めるには、ジェンダーの視点から対策を考えることが重要です。過去の災害では、意思決定の場に女性の参画が十分でなく、性別で異なるニーズへの配慮が足りないなどの課題が生じました。災害時には、平常時における社会の課題がより浮き彫りになると言われています。災害に強いまちづくりのために、多様な人々が意思決定の場に参画できるようにしましょう。

「男性中心型の防災」におさらば



災害に強いまちづくりへの女性の参画

災害は止められないけれど被害を最小限に抑えることは私たちにできる
防災にジェンダー視点を!!



避難所などでプライバシーが守られない



もしも避難生活が始まったら・・・

- 誰もが過ごしやすい避難所運営に大切なこと
- 女性と男性、両方のリーダー・スタッフが運営に携わる。
【目標】リーダーや副リーダーなどの少なくとも3割以上を女性にする
 - プライバシーの確保のため、パーテーションなどを活用
 - 授乳室を設ける
 - 女性用トイレの数を多めに（目安・女性用、男性用=3:1）
多目的トイレも設置



炊き出しなどの労働は、主に女性が担ってしまう!

炊き出しは、やっぱり女性なの？

特定の役割が片方に偏る!

防災知識の普及・訓練
女性は防災意識は高いが研修・訓練への参加が少ない。

防災用品を備蓄している人 **6割**

研修に参加 **1割**

仲間を誘って研修に参加しませんか？

「男女共同参画の視点からの防災」をテーマに地域団体リーダー向けの研修を実施しています。研修をご検討の方は、お問い合わせ下さい。
長崎県男女共同参画推進センター ☎095-822-4729

